

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望等を統計的手法によつて的確に把握し、市政運営の有効な資料とする。

2. 調査の設計

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| (1) 調査地域 | 相模原市全域 |
| (2) 調査対象 | 18歳以上の相模原市在住者 |
| (3) 標本数 | 3,500人 |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳からの等間隔系統抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送調査法（郵送配付－郵送・オンライン回収、はがきによる督促1回） |
| (6) 調査期間 | 令和7年6月24日～7月16日 |
| (7) 調査機関 | 株式会社TDS 神奈川営業所 |
| (8) 有効回収数（率） | 1,501（42.9%） |

3. 調査の内容

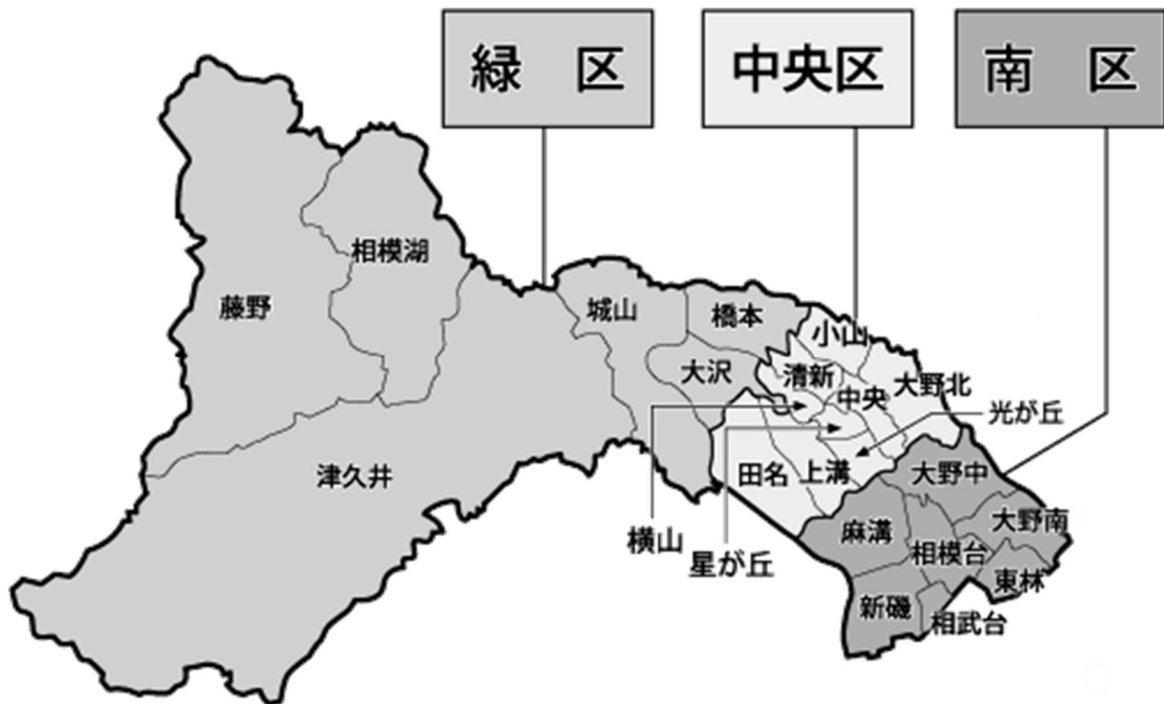
令和7年度 市政に関する世論調査は、10の項目について調査した。

調査項目	設問番号
1 市や区に対する愛着や定住意識について	問1～問3
2 ICTに関する利用状況について	問4～問7
3 SDGsについて	問8～問11
4 自転車の安全利用について	問12
5 市民協働について	問13～問18
6 空き家・住環境について	問19～問20
7 シンゲンジャーパーク（一般廃棄物最終処分場）について	問21～問22
8 図書館サービスについて	問23～問25
9 市政に関する情報について	問26
10 橋本駅周辺のまちづくりについて	問27～問29
基本属性（年齢、居住地等）	F1～F8

4. 区別

地域	地区（対象住所）
1 緑区	橋本地区、大沢地区、城山地区、津久井地区、相模湖地区、藤野地区
2 中央区	小山地区、清新地区、横山地区、中央地区、星が丘地区、光が丘地区、大野北地区、田名地区、上溝地区
3 南区	大野中地区、大野南地区、麻溝地区、新磯地区、相模台地区、相武台地区、東林地区

5. 区別・地区別回収状況



区	地区名	標本数	回収数	回収率
緑区	橋本	356	166	46.6%
	大沢	161	63	39.1%
	城山	115	42	36.5%
	津久井	111	48	43.2%
	相模湖	31	13	41.9%
	藤野	39	17	43.6%
	緑区計	813	349	42.9%
中央区	小山	103	39	37.9%
	清新	154	49	31.8%
	横山	67	21	31.3%
	中央	175	124	70.9%
	星が丘	87	39	44.8%
	光が丘	129	55	42.6%
	大野北	303	97	32.0%
	田名	150	47	31.3%
	上溝	160	77	48.1%
	中央区計	1,328	548	41.3%
南区	大野中	299	112	37.5%
	大野南	391	175	44.8%
	麻溝	88	43	48.9%
	新磯	67	32	47.8%
	相模台	214	77	36.0%
	相武台	93	46	49.5%
	東林	207	84	40.6%
	南区計	1,359	569	41.9%
地区不明		0	35	-
合計		3,500	1,501	42.9%

6. 集計結果を見る上での注意事項

- (1) 表、グラフのnまたは、()内の数字は、回答者数のことであり、回答はすべてnを基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計結果の表やグラフは、レイアウトの都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
- (3) 回答の比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。複数回答の設問は100%を超える場合がある。
- (4) 回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (5) 今回の調査結果による標本誤差は下記のとおりである。例えば、回答者数が1,501である回答が50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.65以内(46.35%～53.65%)とみることができる。

＜標準誤差の表＞

回答比率 回答者数	10 % または 90%程度	20 % または 80%程度	30 % または 70%程度	40 % または 60%程度	50%程度
1,700	± 2.06	± 2.74	± 3.14	± 3.36	± 3.43
1,600	± 2.12	± 2.82	± 3.24	± 3.46	± 3.53
1,501	± 2.19	± 2.92	± 3.34	± 3.57	± 3.65
1,400	± 2.27	± 3.02	± 3.46	± 3.70	± 3.78
1,300	± 2.35	± 3.13	± 3.59	± 3.84	± 3.92

$$\text{※標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{回答比率} (1 - \text{回答比率})}{\text{回答者数}}}$$

※標本誤差とは、母集団からある数の標本を選ぶとき、選ぶ組み合わせによって統計量がどの程度ばらつくかを、すべての組み合わせについての標準偏差で表したものをいう。

